

會 報



1958

舞 台 照 明 家 協 會

目次

巻頭言

劇場の火災頻発について思う……………

小川 昇 (1)

記号整理に関する中間報告……………

篠木 佐夫 (2)

舞台照明昔ばなし(座談会)…………… (4)

邪魔ものを生かせ……………小川 昇 (7)

テレビ照明に関して……………和田 光弘 (8)

声・声・声…………… (3) (11)

事務局通信…………… (10)

事務局より…………… (3)

ニュース、消息欄…………… (12)

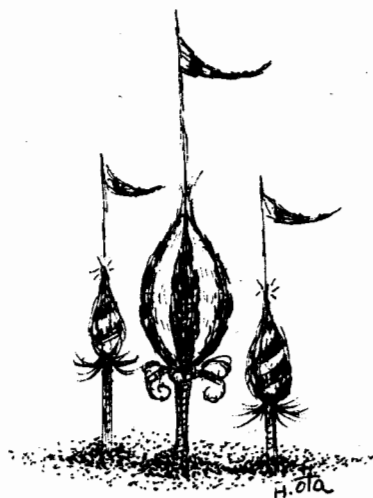
編集往来…………… (12)

編集後記…………… (裏表紙)

★ ★ ★ ★

カット……………太田 弘道

報 会



才 2 号

卷 頭 言

劇場の火災頻発について思う

小 川 昇

最近頻繁に起る劇場の火災について、劇場で働く者、特に電氣を取扱う照明の仕事に携る我々としては殊更に深い関心を持つものである。火災の原因は必ずしも電氣に依るものではないことは勿論であるが、そして今まで決して不用意に取扱つて居たものでないことも勿論であるが、此の際一層の注意を喚起したいものである。

それにつけても考えさせられることは、すべての災害の根本原因に不注意ということが多いことである。後になつて必ずと云つてよい位に、あつて置けばよかつたとか、こうすればよかつたとかという問題が起るのである。根本的な設備の問題もあるし、点検や準備の不十分だつた場合もあるが、それともう一つ考えなければならぬことは、無理と知りつゝやらなければならぬ立場に追い込まれることである。十分な計画と準備のもとに実行すればなんでもない様なことが、その時間が無い為に出て来ても非常に不手際だつたり思わぬ事故の原因になつたりする事がしばしばあるのである。人間の注意力だつて身体のコンディションに依つてずいぶん違つて来るだらうと思ふ。自分ではしつかりして居るつもりでも、二日も三日も徹夜が続いた後などの精神状態は決してノーマルな状態にあるとは云えないだらう。充分な準備の後みんなが落付いた気持ちで仕事が出来たら事故の大半は防げるのではないか。事故は火災ばかりではない。大事に至らない為を目立たない事故が案外に多く、それが大事に至らない為に軽視されている事は誠に恐ろしいことである。どんな無理をしても初日なんだからという様な考えが何処かにあるのではなからうか。劇場そのものもずいぶん酷使されている様だ、道具の製作にまで舞台を使用して居るのだから舞台設備の点検や補修なども疎になり勝ちであらう。今の興行形体ではそれは止むを得ないことだと云つてすませない気がする。直接仕事に携わる者が細心の注意をばらう事の必要はいうまでもないがもつと根本的な問題も真剣に考へて貰いたいものである。

舞台照明記号統一について

篠木佐夫

舞台照明の記号を統一して、そして今までの不便を無くそうと云う考えは、かねてからの懸案になつて来た。一応、共通の図式なり方式なりが、職域のプロツクによつて出来てはいたもの、その中には不合理なもの、また、自己流な科学的に無意味なものも無きにしもあらずであつた。そしてその改良の為記号統一委員会をもうけ、後ればせながら、制定したこの事実を会員諸君と喜ぶと共にこの記号の運用に附いても円滑に行われるように御協力をお願いすると同時に、不備な個所については、有意義な御指摘を希望します。

相変らずのスロモエ事務で恐縮ながら、ようやく決定を見ることが出来ました。そこでその経過報告と、その概要についてふれて見ようと思ひます。昨年九月十二日の常任理事会に於いて、

遠山 静雄(田中 恒雄)
松崎 国雄(沼田 勝男)
大庭 三郎(岩崎 令児)
前田 二郎
松浦光次郎
篠木 佐夫
の六名が委員として選ばれ、不肖、私

が委員長に挙げられました。カツコ内の三君は遠山、松崎、大庭の三委員が出席不能の場合にその代理として必ず出席して頂き、事務的支障を来さない私の老婆心からお願ひしました。勿論、委員も、経験豊富な方、また、松竹、東宝、或いは職域分野の点などを斟酌して選ばれたとは云うまでもありません。尚ほ、滝尾輝雄、篠原久の両君に事務の担当をして貰うことにしました。

第一回の委員会は早速、全月十八日に開かれ最初の草案について検討が行われました。そして回を重ねること三回にして委員会としての一応の原案を作り上げ、会員のアンケートと、拡大委員会としての常任理事会にはかつて、十二月十七日に、別表の如き一覧表が出来上つたのです。次に、その表の摘要について些か詳述すれば、

(一) フットライト、ポードライト、サスペンションバツテンの記号の中の「横長方形」と「矢印記号」のあるのは、横長方形は、劇の照明プラン図に用いるものでなく、劇場設計の場合にその位置と長さを表示するためであり、矢印記号は劇照明のプラン書込みの場合にその平面図の上手寄りに記入して、

フット、ポードのある位置を示し、尚ほ、ポードには、その列数をIB、またはB2の如く矢印の所に付記しておくことにしました。

(二) サスペンション、スポットの記号に「二重の円」と「射光角をもつた円」の二種あるのも、前者は単に上部より真下につり下げて用いる場合後者は射光角によつて照射方向を示し、照射面積の大小も或る程度表わすことが出来るようにしました。

(三) フロント、スポット、その他のスポットは形容記号と射光角記号の二種類にしたのも、従来の慣習によることであるが、色々論議の対照となつて結局両方共採用することになりました。

(四) フラッド、ライトの項のサン・フラットは、丸茂電機の製作になるSR、の如く、レンズをもつて、しかも反射鏡を有効能率とする器具を総称して呼び、記号もボツクスライトにスポットの射光角記号を加味して用いることにしました。

(五) ストリップを舞台装置の窓の両側、或いは両袖に垂直に立てかけて用いる場合に、新たに立ストリップと呼び、記号も図示の如くになりました。

(六) 「板付け」は、ストリップと區別して、ゼラチンートの用いられない所謂、昔風な露出式のものを図示の如き記号を以つて示すことにしました。以上は、ほんの二、三の記号統一が決

電 照 社

渋谷区伊達町 63
電話 (44) 6782

丸 茂 電 機 株 式 会 社

千代田区神田須田町 1 の 24
電話 (25) 0321

められるまでの概要であります。元來
舞台照明の向上は、その技術の進歩と器
具の改善が肝要なことであるため、この
記号もそれに準じて、改良すること。

◆些細なこと

Y 生

ほんの些細なこと一つ。

先日都内のある小さな貸ホールで踊り
の発表会を見た時のことです。

暗い色調の中をランプスポット一台が
踊りをフォローしているのです。些細な
ことは、その一台のスポット

です。踊りの動くにつれスポ
ットの動くにつれ、不思議な

光が一つ、舞台の袖やらプロ
セニアムの上方をうごめいているので

す。もうお解りです。スポットのミラ
ーです。些細なことですが……それと同

じ様なことが、この踊りの最後の部分で
も又一つ気になりました。踊り終つた最

後のポーズに上から落されたサス・スポ
ットの電球のフィラメントが横を向いて

いたのです。……貸ホール等の増加に
伴い年々歳々その数を増す小さな各種発

表会で、これに似た些細な、それで重大
な無神経さが、段々ふえて来る様な気が

してなりません。



あえて辞しません。

尚ほ、末記ながら、一覧表の下端の特
殊レンズ(フレネル)の記号の○は◎
の誤りに付き訂正して置いて下さい。

◆ミキレマスヨ

零 零 生

最近、袖の浅い公会堂が増えた故か、
舞台上にある器具のミキレの問題が非常

にズサンになつて来た様に思えます。
劇場に取付けられている各種の照明器

具は、そのいずれも、見てくれとしては
余り感心出来たものではありませ

ん。まして非常に近代的な建築にな
つた最近の劇場、公会堂に於いては

いよいよそれが目立つ様です。
照明は、原則としてその特殊な場合を

除いてあくまで器具—光源は客の眼から
隠し、舞台上の効果をあげなくてはなら

ない筈だと思ひます。
効果あげるべき照明器具が、逆に舞台

の折角のイメージを破壊せぬ様、もつ
と細い注意を払つて欲しいものです。

★ ★ ★

△事務局より▽

会報第二号の発行が大変おくれて申訳あ
りませんでした。おくれた理由を申しま

すと言訳になりますから今後の希望を述
べて会員諸兄の積極的な御協力をお願い
申します。

出来ることなら簡単なものでもいいから
隔月に発行したいと思ひますが、何と云

つても先立つものは原稿なのでどんなも
のでも結構ですから編集部で持て余す程

原稿をお寄せ下さる様お願い申します。
研究発表や意見の交換等の場に会報を御

利用下さい。協会の運営等に関する御意
見や御希望など沢山あると思ひますがど

しくお聴かせ願ひます。何か研究課題
を提出して下さい。ことや質問を出して下

さることも原稿を集める一つの方法だと
思ひます。

会員名簿の成製に当つては出来るだけ調
査したつもりでしたがまだ間違いがあり

ました。申訳ありません。こんな間違い
を無くする為にも住所変更など会員の消

息をたえずお知らせ下さい。
それから会費の集りが非常に悪いのです

が、これは集金の方法にも不備の点があ
ると思ひますので事務局でも研究致しま

すが積極的な納入をお願い申します。

◎尙当分の間協会の連絡先を左記に致し
ますから御承知願ひます。

東京都千代田区丸の内二ノ六東九号館三
号、愛久沢事務所内小川舞台照明研究所

電話四八二一九

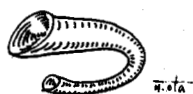
東京ゼラチン加工株式会社

板橋区大和町23
電話 (96) 0594

バグナル株式会社

港区芝田村町3の7
電話 (59) 7651

舞台照明昔ばなし



出席者

- 春 藤 為 遠
- 郎 次 富 丸
- 精 田 和
-
- 郎 太 万 保 田 久
- 男 美 喜 沢 穴
- 市 鶴 川 石
- 雄 虎 野 上
- 昇 川 小
- 午 甲 条 上
- 夫 佐 木 篠
- 臣 道 保 神
- 雄 静 山 遠
- 郎 二 田 前

(五十音順)

昭和33年2月11日

— 於 鉢巻岡田 —



小川 座談会を
始めます前にちよ
つと御挨拶申し上
げます。舞台照明

家協会でいろいろな企画をしているのでございますが、その中で古い舞台照明に
関した話を今のうちに伺つておかない
と、そういうことを聞くことができな
くなるのではないかとというような話があり
まして、できるだけ昔のことをごぞんじ
の方々に集まつていただいて、いろん
なことをお話し願いたいというわけで座談
会を計画したのでございまして、まことに
ありがとうございます。

大体的内容としては、まだ電気とい
うものが舞台に入つて来ない時代のこと、
それからガスになり電気が入つて来ても
ただ電気で照すというだけの幼稚であつ
た時代もあると思つておりますのでそ
ういふことを遠藤先生などにお話し願
へばと思つております。

遠藤 こちらは若手ですから古いこと
は……。 (笑声)

小川 震災の直前くらいになります
と、舞台照明という独立した技術的なも
のになつて、われわれも開いたり実際に
やつたりしていることもございますが、
これから篠木君、穴沢君あたりがいろ
いろと順序を立ててお尋ねすると思つ
ますが、ひとのせいでお願いたします。



篠木 電気がい
わゆる照明の材料
として使われる以
前の時代、ガスと

か天窓とか、いろいろ伺つてお話をま
とめてこんなふうであつたという様子だ
けを……。

久保田 興業時間の問題でしょう、昔
は昼間外のみでやつてたんだ。明治
三十年代までは窓ぶたをあける。(註)
窓ぶたとは客席の天井の窓のこと)それ
は私は覚えてますよ。

篠木 東京ガスから出てる「ガス会社
の年代史」あれには新富座が一番最初に
ガスを使って、ガスを見に表に見物人が
来たという記録があるんですけども……。

久保田 ガスを使つたのは新富座、ぐ
らいなものでしょう。

篠木 遠藤先生に一つ、昔の照明、た
とへばろうそくとか、ランプなどのお話
を願います。

遠藤 ろうそくですか。順にお話すれ

ば、私が一番古く知つてゐるのは元の市村座、その時は電気もガスもありません今の久保田さんのお話の通り窓ぶたです。窓ぶたで光線を取つたわけで、いよ

く暗くなるとランプがついた廊下やなんかには照り返しがついてゐるようなものをつけたのですが、大い日の暮れるころにはねてしまつた。つまりランプというものは芝居を見せるためじゃなく、夕方になつて足元が危なくなるからです。歌舞伎座ができたのは明治二十二年

ですが、完全に電気を使つたのはそれからですよ。真ん中にシャンデリアがあつた。三十六灯ついていて、これにはちよつと驚いた。豪奢なシャンデリアです。昼間は電気が来ないです。夕方になつて送電されるわけです。



上条 その時分
甲午 昼間線ではないか
上條 上...

つてゐる最中でも時間になると電気がパツとつく。そうすると見物人が喜んだわけです。それまでは土間でもさじきでも電が見へない位薄暗い。電気がつくとも電が見へるんですね。電が見へると云つてお客が喜んだ。私は団十郎の「重盛勲言」のとき、その半ばでいつも電気がついたので憶へてゐる。

久保田 歌舞伎座だけでしよう、あとはガスでしたね。
遠藤 歌舞伎座は天井が電気のシャン

デリヤで、ガス燈のフットライトで見物の側は茶筒を半分に割つたようなもので覆つてあつた。

上条 そのときマントルというのはなかつたんじゃないですか。

遠藤 裸火です。花道には、現在のエレベーター、マイクローフのように、ガスの棒がスーツと出て来た。

上条 魚尾燈みたいなものです。マントルなしで……。



遠山 縁日のア
山 七チレンみたい
な。
遠藤 歌舞伎座

は天井の真ん中にシャンデリアがあつたから花道に電気はなかつたが、ほかの劇場は花道の上に電気が下つてゐた。歌舞伎座は上の方はそのシャンデリアがあるし、下からは、ガスが出る、団十郎が芝居をしてゐるときに素襦がこげたのを覚へてる。ガス燈がなくなつてから、舞台の方のフットライトは、オシヤブリみたいな形の覆つた電氣になつた。

篠木 ハーフ、シェードというやつ。遠藤 しかし、それは花道にはなかつた。

上条 私の覚へてゐるのは、花道の上へ裸電球で三燈ぐらいぶら下つてました。それでマントルができてから大きなガス燈が二つ下つた。

遠藤 二長町に越した市村座にちよつとくの形をしてゐるシャンデリアがあつ

て、棒で一燈づつつけて歩いてゐた。ちよつとくの形をしたのも氣取つたんでしよう。

久保田 ガスは市村座だけです。

遠藤 電気は歌舞伎座だけでほかはみんなガスですね。一般の家庭でも照明はガスが多かつた。

篠木 ガスが一番最初についたのが新富座で、電気で立派なのが歌舞伎座というわけですね。

遠藤 歌舞伎座だけです。開場式のときからシャンデリアがあつたのは……。

篠木 ガスと電氣両方使つてたわけですね。舞台の方はガスを使つて、客席の方は電氣のシャンデリアを使つた。場末の小さな小屋でも、ガスや電氣を使つていたでしょう。



久保田 私の生
れた頃、(笑声)
つまり一八八九年
、その頃小芝居で

はちよつとを板に立てたやつを、舞台上に立て、フット、ライトにしたが、かなり明るかつた。

篠木 その時分の照明設備の名残りのような形が戦争以前に地方の小屋へ行くと、ありましたね。

小川 奈落なんからちよつとしか立つていないで、ぼんやりしてこわいようだった。

久保田 舞台の照明として電氣を専用に使つたのは高島屋が西洋から帰つてき

て、電氣のいろいろな機械を買つて来て以来。

小川 それまでは電灯はもつぱら客席用のもので、ついでに舞台も照してゐたんです。

篠木 遠藤先生、さつきの窓ぶたです。それを開閉して稲妻の模様を見せたり、夜明けの感じを出したりしたそうですが。

久保田 夜が明ける。と窓を明ける脚本に指定されてる。

篠木 結局、夕方になるとか朝になるとかいう場合。窓を閉めたり開けたりするのですか。

遠山 「岩戸だんまり」のときに盛んにやります。

上条 窓ぶたをあけると陽がさすことがあるでしょう。陽がじかにささないように日覆いをしてささる。

遠藤 私どもが舞台の照明でびつくりしたのは「磐梯山の破裂」という芝居があつた。



篠木 磐梯山が
虎 破裂したのは明治
二十三年。

明と言へるかどうかわかりませんが、これも、磐梯山は幼灯で山の形が出た。

久保田 「サンゴゴウウつす幻灯」

遠藤 題名は磐梯山と言はないで「浅間山うつす幻灯」と云つていました。あれは舞台一杯に山の頂上の方が動いてい

る。そんなものは見たことがないからびっくりした。中腹から破裂して砂をかぶつたところを、家を壊して五代目が出てくる。とても受けた芝居ですね。

小川 幻灯の光源はランプでしようか。

遠山 うつし絵ですね。

小川 それでは昔のランプを使った「うつし絵」ですか。

遠山 ほかが暗いから……。 (一同笑声)

遠藤 ほかが暗いから映つたんですね風呂というまっ四角な箱で、どういふふうにやつたんでしよかね。楽屋へ行って見たことないからわからないが、山のとつぺんがもえて。名題が「うつす幻灯」とはつきり云つていた……。

小川 それにしても、光源が何にを使つていたか。相当明るい光源が必要だと思ふが、一寸想像がつかない。



春 藤 藤 遠

遠藤 それから 團十郎の「文寛慈眼寺の月あかり」という芝居で、一番段目が團十郎と菊五郎の「一の谷」で、その次の二番目です。

久保田 参考になか書いたのと思ふんですが、田村成義さんの「続統歌舞伎年代記」変つたことが書いてある、劇評なんかも……。

遠山 團十郎の文寛というのは話は聞いている。石段のところに腰かけて月光を

あびて大へんよかつたという。月光がさしたんでしよう。

遠藤 さしたんです。これは今までのらばうしろへ月の形が出るわけでしょう。しかしそれでは團十郎が納まらないで、上から月光をささした。

篠木 何を使つたでしようね。アークを使つたんじゃないでしようか。

上条 アークはあつたけれども、スポットにしてアークを出すような頭はない。鏡か何かでやつたんでしよう。



次郎 富 茂 丸

丸茂 アークと云つても街燈用のアークでしよう。

久保田 それから照明は使わなければならない山口佐太郎の電気応用というのを覚えています。「二十四孝」なんかやると、衣裳に電気がついている。

小川 今のレビニューなんか古くさいものだね。衣裳へ電氣をつけるといふのは昔からやつてたんですね。

遠藤 体中イルミネーションなんだ。篠木 どんな風にして電球を取つたのか知らないが、当時としては随分電氣的に危険な仕事をしたと思ふが、役者も大変でしたね。

遠藤 イルミネーションどころか、ほんとに衣裳に火をつけて舞台に飛び出した役者まであるからね。

篠木 本火の話が出たから、こんどの東宝劇場の火災の話に触れてもいいと思

いますが、あれは、いろんな可燃物の取扱いが不注意であつたのではないでしようか。消防庁が大へんうるさくなつて、ローソクもマツチも、煙草も使へないという杞憂があるんですが、照明家協会もこのことについて充分考へなければ可かないと思ひます。

遠藤 私が突にびつくりしたことは、納子の血ダルマで、これは大へんなんだ。戸が閉つて中から火が出ている、その中へ飛び込んでしまふ。私はおもしろいんで楽屋へ行って見たりして覚えてるんだけど、エーテルという油があるでしよう。あいつへ着物をつけて着るんだな。そしてマツチで火をつける。パツともえ上りますよ。そいつで舞台へ出てくる。血ダルマを抱えて花道へ行って揚げ幕まで行くと吹ボヤで行けない。上手へ行くと吹ボヤ、下手も吹ボヤで、舞台で腹を切るまで火がもえてる。そいつは大へんやつだ。これは人間業じゃない。やけどしなかつたらしい。先代の堀越さんがおもしろいというので楽屋で見ると幕になつてから一諸にお湯へ入つたら背中が赤くなつてた。背中流す男が「赤くなりましたね」と言つたら「よくこすつてくれ、そしたら直るから」と言つた。不死身じゃないかという話ですが……。

遠山 それはやつぱりやけどでしようね。痛いですよ、こすつては。

久保田 納子という人は盲腸炎で腹を

切るとき舞台では腹を切つたことはあるけれども、ほんとうに腹を切つたことはないというので、だまつたという、猛優という名前があつた。

篠木 猛優納子というニツクネームがあつた。

遠藤 不死身じゃないかと思ふ。もえてる着物を着て、背中が赤くなつて何ともないというのは、ただの体じやない。

上条 関東の震災後に納子が常盤座で血ダルマを出した。そのときは目が悪かつたが何も使つてくれるなと云うので、おろしたが、それが馬鹿に氣に入つてしまつた。

篠木 だいぶあつたか話で江戸の花を咲かしてしまつたが……。

紙面の都合で後半は次号に分載させて載きます。(編集部)



世界の大都市といわれる程の都会で、東京のように電柱が立並んでいる都会はないそうだ。此れが狭い道路の両側にガンバツていてしばしば交通事故の原因にもなるし、都市の美観を害すること甚だしい。全く邪魔ものである。しかし、今直ぐに此れを取払つて地下ケーブルにすることが不可能ならば、これでよいと思つて居る人が一人も無くても、電気や電話の利用価値の方が都市の美観よりも大切なものとして我慢しているより外はないであらう。

邪魔ものは取除けるが一番いいにはちがいないが。それがどうしても必要なものであるかぎり、取除けるにはそれに代るものを考へなければならぬ。電柱が邪魔だからと云つて只取払つてしまつたら我々の生活はどうなるだらう。電柱の他にも此の世の中には色々な必要な邪魔ものが沢山あるが、最近私はもつと我々の身近かなことと此れに似たようなこと度々考へさせられるのである。近年東京だけでもずいぶん沢山新しい劇場や舞台を持つたホールが出来た。そして客席やロビーなど実に立派なものであることは御承知の通りである。こんな劇場やホールが出来ると云う話しを聞く度に、私はいつも希望に胸をふくらませて期待するのであるが、さて出来上つたものを見ると残念ながら些か失望させられる場合が多い。それは此等立派な客席やロビー等に比較してあまりにも貧弱な舞台設備に対する失望である。特に我々には照明設備に対して殊更に関心を持つのは当然のことであるが、進歩改善さる

“邪魔ものを生かせ”

小川昇

べきものが逆にだんだん後退しているように感じるのには私だけであらうか。従来も我國の舞台照明設備は、昔ながらの舞台機構の中に、出来るだけ邪魔にならないスペースを与へられて来たような感があつたのであるが、最近出来る劇場やホールの中には、照明の効果や操従のことを考慮に入れて設計されたとは考えられないようなものさもある。

照明効果を見ながら操作出来るような位置に操作室を設けることは中々困難なことにはちがいない。又所謂スポットルームと称するものも客席の美観という点から見たら決して体裁のいいものではないが、此れは日本の劇場の設計が根本的に変更されないかぎり止むを得ない存在であつて、これを只邪魔だからと云つて取除けるだけでは地下ケーブルも設けずに電柱だけを取払うのと同じ結果になるのである。スポットルームを取払つたためにムキ出しのスポットが客席につり下げられるようなことになつては客席の美観は一層害される結果になりはしないか。頭から邪魔もの扱いをせずに必要なものは生かして使へるように考へてもらい度いものである。



松村電機製作所

文京区根津宮永町22
電話 (82) 6161

昭和電機株式会社

中央区西八丁堀2の15
電話 (55) 5911

テレビ照明に関して

和田光弘



日本にテレビジョンが生れて今年で五年に成ります。現在放送中のテレビ局は、NHKを含み十六局あり、来春までには、東京、名古屋、大阪に七局放送開始し、地方局を加えると、将来一〇八局と成り、五年前には誰れしも予期し得なかつた発展振りです。吾々舞台照明家にも大きなマーケットが与えられました、若い方達には大きな魅力と成る事であり、今にテレビ放送局に送り込む照明家を探すのに困る時代も近いのではないかと思はれます。

テレビに於ける照明部門の役割は非常に大切に舞台や映画に勝るとも劣るものではない、舞台や映画と異なる点は、技術部門との協力なくしては其の目的を果す事は出来ない、技術的な制約を頭におき照明プランを作らなければならない。

スタジオ照明設備

日本テレビ第六スタジオ(一五〇坪)では、照明調光室は二階に設けられ、照明係はスタジオ内の舞台や照明の具合を見下せる様に成っている。

ポーターライト(バトン)十五層の物が約六、五尺門、に十二本並び三列に成つて居り、室の横のカウンターウエイト繋り舞台と同様である、各バトンには四回路八本(一回路二本宛)のキャプタイヤーコードにS型五〇Aコードコンネクターの付いたものが下つている。バトンにはソーラースポット、スクープライト、カッターピンポット、其他照明器具を吊り下げ、セツトの高さまで降して使用する。此のスタジオには正面にハリゾントルの壁が造付けになつて居る為他の三面の壁の下方に三〇A及五〇A一八回路三ヶの受口(フロアノコンセント)がある。バトンに下つている各コンネクター及フロアコンセントをパツチコード式の接続にて、調光器に適宜に接続出来る、調光器は三〇A三〇掛四〇A九掛、オートランス三五KW三台にて、主幹配電盤は三相線四五〇A3P二個にて、操作配電盤に三〇A2P一六ヶ入ある。このスタジオに使用する照明器具は五〇〇Wソーラースポット、一一〇合、一KWソーラースポット一〇合、二KWソーラースポット八合、一KWスクープ六〇合、五〇〇Wスクープ二四合、

五〇〇Wピンカッタースポット六合、バトンライト五合、六尺ストリップライト、二〇本、ボックスライト一〇合、一五〇Wスパイポット五合、其他エフェクタマシーン等使用出来る。

テレビ照明の規準

テレビの照明規準の問題は、第一にペーライトが一定のレベルで全体に当る様にする事である。若しもこの基礎的なペーライドが技術的な条件に不適當であるとすると、芸術的效果は損はれてしまふ。技術的の面が先づ第一に考慮されて、始めて技術的要求と芸術的要求とが互いに達成されるのである。

ペーライトは各セツト全体の面に均等な照明レベルを与える、これには各種の照明器具があるが、主にスクープライトを用いる。照度は最少照度レベルは入射光として、レンズ絞f8にして、四〇呎燭の範囲が理想である。次にタツチライト、を当てる、タツチライトに含まれるものには、キーライト、バックライト、モデリングライト、アイライト、及特殊な照明効果がある。この照度はペーライト、レベルの一、一、五倍の間にする。バックライトは一番低い、そして出来る限りのリアアングルであることモデリングライトは側方から当てる顔を引立てるとかする為めに使う。アイライトは大体眼の高さから当てる、演技者の顔をク

近藤電気工業株式会社

世田谷区経堂 1の134
電話 (42) 2096・9619

中川商店

千代田区神田司町 1の5
電話 (25) 1783

ローズアップして眼の輝きを写すのに使う。歌手等には是非必要である。

次にライを消してしまふものドラマテイツクなシークエンスとか、月光を出す効果、踊子のみをスポットの中に浮びあがらす様な特殊効果を出す為めの照明は、通例画面の質を犠牲にして使はれるものであるから、短いシークエンスにだけ使う様にすべきである。一般に此種の照明をする場合にはベースライトを標準の以下に下げてはならない。

次にスポットライトの明るさのレベルはデイマールやゼラチンペーパー、プラスチック、フィルターを使ってコントロールする。螢光灯には、ホワイトチェームを使うのが標準の様であるが、未だ使用した事がないので、其の結果はここに申述べる事が出来ない。

次に注意を要する事は、白色、銀色で反射の強い衣服、アールクロス、ベツトの白い敷布、寶石、帽子、裸の火、はローが起き、周囲が黒くなり、イメージオルシコン、ゴーストが出て結果は非常に悪い。この場合背景を明くして調整する。以上の如く、セツト衣装等のコントラストの比と、睨み会せて照明を定めなければならない。例へば背景が黒板擦の様なセツトの前に白の衣装、又はこの反対は禁物である。屢々見受ける事であるが、画面に写っている人物の肩のあたりに、ブラックボードが出ていたり頭髪や黒衣装の周囲に白線を縁取つてい

るのは、背景とのコントラストが強過ぎる為めである。繰返し申述べるが、第一にベースライトの設定、次にキーライトエフェクトマシーン、ピンカッタースポット、射光板、其他特殊照明器具及調光器を使用し劇的效果を高める様にす

テレビ用装置の色彩

現在の黑白テレビでは、繰ての色彩をグレー(灰色)の階調としてのみ再生する。故に理想としてはグレー又は紫の一種類にて濃淡に画いた方が間違いが少い、テレビ用グレースケールは一号より九号迄で使用、常に使用するところは三号より七号までで、ホリゾンタルは二号と三号の中間色を使用している。公開番組等は観覧客をスタジオ内に入れる為め色彩があつた方が見た眼に美くしい、たゞ、こゝで注意する事は、赤、緑、茶等見た眼には区別出来るが、画面には同色に写る事がある、これは色のトーンをグ

レースケールに合さなければいけない。白や黒はテレビには禁物である、但し、一寸したアクセントをつける時のみ使用するべきである。

良いテレビ画面

テレビ画面として技術的に、及第点をつけられる、そして劇的にも面白いものを良く演出する為めには、立派な照明技術が勿論一番重要な基礎になる、然しセツトの最も良好な照明効果も、映像調整の不注意から、又操作テクニツクの貧弱なことから臺なしに成る事が有り得る。テレビに対する経験を積むにつれて、テレビ照明と映像調査とは非常に関係が深く、双方の活動の完全な協調なくしては最良の映像を得る事の不可能を痛感する。この双方の分にも、其れ／＼制限があるが照明係は映像調整の技術面を理解すると同様、技術部門のテクニカルディレクター、カメラコントロール、及カメラマンがテレビ照明の目的を理解する事が絶対に大切である。

技術係は映像調整に当り、ターゲット電圧各カメラのレンズの絞り、ビーム電流、及黒レベルの調整を完全に、是等のパラメーターの注意深い選択並びにセツティングを行つた時に始めて良い画が出る。これがなければ、良い照明技術を使用し、幾ら努力を払つても無駄なことである。

テレビ再生色	グレースケール改	階
黒	8	10
暗	5	8
薄	2	5
白	1	5
淡	3	4
淡	4	8

.....11頁に続く.....

岩崎電気株式会社

杉並区西荻窪 2 の 138
電話 (39) 4812・6640

光研電気株式会社

品川区北品川 4 の 560
電話 (49) 5070

事務局通信

No. 2



◇第二回総会(第一次)三二年四月十日
協会創立以来初の総会を日比谷音楽堂にて開催す。

先づ天野理事の開会の挨拶あり、続いて遠山理事長より

「協会も発足して第二年度を迎えました」第一年度は、事業も殆んどなされていながつたが、第二年度には是非とも活潑に動きたいと思ひます。尙一層の会員諸氏の御協力をお願いする次第です。」と挨拶があつた。

天野理事三一年度会計報告に対しては、質問なく承認さる。続いて、三一年度事業報告(天野理事)三一年度は準備のみに終り、特に取り上ぐべき事業はなされていない。

役員改選、改選方法を、ブロック単位より選出することにし、選出用紙を

プリント配布しそれを投票用紙として使用することを決める。投票用紙の提出期限を四月十六日とす。

◇第二回総会(第二次)四月十八日

投票の結果新役員を左記の通り決定した。

新役員

会長 久保田万太郎

理事長 小川 昇

常任理事

穴沢喜美男、天野弓助、秋山易三、大庭三郎、齊藤政雄、篠木佐夫、篠原久、相馬清恒、滝尾輝雄、田中恒雄、土村晶、沼田勝夫、前田二郎、松崎国雄、山本順三、和田光弘

理事

青木久一、相原誠一郎、今井直次、岩崎冷児、石川鶴市、小川俊治、落合勝造、櫻原義雄、春日正彦、加藤静夫、川崎ひろし、葛野雅也、栗山隆、小林君子、柴山隆郎、島崎達造、高橋吉正、立木定彦、高柴正夫、塚原清、手塚喜好、中本猛雄、二瓶正吉、根本好章、原英一、松崎康道、山口達次、山下俊弘、吉本一郎、美月光、

監事

上野虎雄、上条甲午、遠山静雄

○明治座の火災に關して、挨拶(高

田)説明(落合)

○明治座照明部全員入会申込

◇常任理事会 九月十二日 文明堂

出席者 小川、天野、松崎、土村、秋山、山本、相馬、田中、和田、篠木、滝尾、前田、篠原

○舞合照明記号統一、照明器具照度調査の両方を含めた、研究調査委員会を設け、その委員を左の通り決めた

委員長 篠木佐夫

委員 大庭三郎、遠山静雄、松崎国雄、前田二郎、松浦光次郎

事務担当 滝尾、篠原

○事務局メンバーの選出

事務局長 相馬清恒

経理 齊藤政雄

庶務 田中(恒)、梶、天野

出版 滝尾、秋山、立木、川崎

◇記号統一委員会第一回九月十八日さつ

まや出席者、篠木、前田、沼田、相馬大庭、滝尾

◇記号統一委員会(第二回)宝来パン

出席者 篠木、大庭、前田、滝尾

◇常任理事会 十一月二十四日 文明堂

出席者 小川、穴沢、篠木、沼田、相馬、前田、立木、篠原、土村、松浦、齊藤、滝尾

○記号統一委員会の第一案の説明、検討訂正し、第二案を会員全部及關

西、中部両照明家協会へプリント配布して意見を聞くことにする。

○久保田万太郎会長の文化勲賞受賞に

イースタン照明社

新宿区戸塚町3の74

電話 (36) 0206
(368) 2402

日比谷サービスステーション

千代田区内幸町(日比谷公会堂内)

電話 (59) 4000

際して記念品を協会より贈呈することを決める。記念品は、木製電気スタンド

○月例常任理事会を、第二木曜日開催することを決める。

○常任理事会 十二月十七日 演劇協会 講堂

出席者 小川、和田、相馬、上野、山本、齊藤、篠木、滝尾

○記号統一第二案に対する検討

○会報第二号に「舞照照明昔ばなし」

の座談会記事を載せることを決める

○年賀状発送に関する件

○常任理事会 三十三年一月十五日 文明堂

出席者 小川、相馬、滝尾、梶

○事務局の本年度計画の一部として、事務局員は毎週木曜日に、小川舞台照明研究所事務所に午後一時に集まることを決める。

ゼラチン・シートに

規格が欲しい

○ 生

戦争直後の文字通り貧しかった時代、小屋もなく、公会堂さえなかつた頃にくらべると我々の使用している照明器具も、当然のことながら、随分と立派になり、種類もふえた。

所が、その立派になり、種類のふえた故に、大変使用に不便な点が数多く出て来たことを、プランナーを含めて製造業者の方達、御承知だろうか。枝葉末節的ではあるが、その最も甚しいのはゼラチン・シートの大きさである。大体、ゼラチン・ペーパーの大きさ、寸法さえ大して考慮にいれないで設計される各種器具があることさえ不思議なのだが、それより一段と不便なのが、スポット関係のシ

出席者 小川、篠木、前田、相馬、齊藤、小林、穴沢、田中、石川

○座談会の日時二月十一日 午後五時

○座談会出席者は、座談会記事参照

右の通知を発送する。

座談会出席者は、座談会記事参照

トの寸法の不統一である。幾つかの製造業者の各社がまちまちの上、同じ業者の器具の中にさえ一寸考えてくれれば補える管の寸法の不統一が多く見られるのである。

一例をあげれば、YホールにあるM社製、八吋レンズのMF型とC型のスポットである。同じKW

同じ八吋、同じ場所に使われる二つの型のスポットの寸法を何故

僅か三分四分の差をつける必要があるのだろうか。見れば、この不便さは唯シート受けの頸の位置を少し変えるか、大きさを変えるかすることのみで、器具の効果に関係なく補える管である。こんなことが、他の各種器具についても色々とあげられるが、これは単にゼラチン消耗の経済的な面のみならず、具体的な照明操作強いては効果の上にさえ大きな影響



メーカーに望む

T T 生

のあることを強調して関係者の御一考をうながしたいことである。

現在の舞台照明器具の種類は、実に多種多様である。メーカーの数もさること乍ら、一メーカーの製品でも、各種の器具を生産して居り、それらの各照明器具のゼラチン枠も色々の大きさがあり、ゼラチンを繋げる際に一々その照明器具の種類に依る通りに配慮せられていない現状であるこれについては実に不便さを感ずることが多い、これは是非各メーカーが考慮して欲しい。同一メーカーの製品の内でもそのゼラチン枠の大きさを統一し、広くは、各メーカーも同一の大

……9頁「テレビ照明に関して」より続く……

照明、映像、調整、装飾、衣装、メイクアップ、これらのチームワークがとれ、最良のテレビ画面が作り出される。劇場における舞台と同じく、テレビも又総合芸術である。

ききに統一して貰えたらどんなに手数が省け、ひいてはゼラチンの節約にもなること、思う。例えば、スポット類に関しては、レンズの口径に対して全ての型のスポットのゼラチン枠を統一し、又ボウダー、フットと夫々の器具の種類に依りて、ある何種類かの大きさで生産されることを望む。そしてこれらの各ゼラチン枠の大きさを出来得れば、ゼラチンの全紙の何分の幾つかなるようなことまで考えられて欲しい、それに対しては現在のゼラチン全紙の大きさを多少変更しても良いと思う。これは大変に難しいこととは思ふが、是非とも、日本の舞台照明界に常に多大の御協力を下さっている、メーカー各位の御理解ある一層の御協力を望んでいる。



けら落し興行の新派公演に大ヘリキリ先づ協会としても一安心。当協会会員久保田万太郎氏を団長とする中共演劇親善使節穴沢喜美男氏も同行して、昨年十二月初旬出発、予定通りの日程で多くの有益な資料を携えて十二月末帰国した。

梶孝三君わ松山樹子バレエ団の中共巡演に照明係として付添つてこの三月四日航路で横浜を出発した。

東京宝塚劇場が二月一日午後四時二十分頃初日公演「アイヌの恋歌」開演中に突如舞台上部より出火、一瞬にして火の海と化し、全焼した。会員松浦光次郎氏他照明部全員が無事避難した。併し開演中だった為、スポットルームに操作に当つて居た照明部員わ脱出に戸惑い、やつと窓等から飛出した。従来よりこれに対する心配わされて居たが、今回の経緯で穴倉の行詰りの様な照明室から一步進んで近代建築に忠しく避難し易い形のものに改良されて行かなければならない。再開は三月末の予定

○ 昨年の春に焼失した明治屋が今春三月一日新装相成つて開場した。総べて近代設備のを誇る程の大変にモダンな設計の様です。落合勝造氏他、元の明治座のメンバーが殆んど復職して、こ

田中恒雄君

○結婚お目出度う!

加藤郁平君 (NTV)

青木久一君 (")

当協会主催で二月十一日(火)午後五時から銀座松屋裏「岡田」で舞台照明界の創始者の方達が集つて「舞台照明昔ばなし」として座談会を催した。当日わお客様として池田源次郎氏、和田精氏、丸茂富次郎氏、遠藤為春氏、喜多松太郎氏、秀文逸氏をお招きし、協会からわ、久保田万太郎氏を始め、石川鶴市、遠山静雄、小川昇、大庭三郎、上条甲午、上野虎雄、前田二郎、穴沢喜美男、篠木佐夫、神保道臣を出席者として予定した。その記事わ早速会報に前半を載せ、後半わ次号にて御期待を乞う次第等。

吉井澄雄君
根本好章君 (第一生命ホル)
山下俊弘君 (KRT) TV

○(会員消息)

●新入会員一九五八年二月
植草卓聖 (説売ホール)
田中 利男 (板橋区民館)
大野 洋 (小川照明研究所)
遠藤茂実 (グイデオホール)
原田禎男 (篠木照明研究所)
宮尾益美 (")

●任所変更 (住所わ新住所録を参照)

多賀新二 港区赤坂青山南町六ノ六五
ホークドリヤン別館六〇号
吉井澄雄 目黒区駒場町八六四静光荘
山下俊弘 川崎市上小田中一六〇一

●脱会

鈴木要一、富宿菊生わ昨年来を以つて脱会

編集往來

「会費だつてえー高いね。払えないね……事業らしい事も何もしないで……」等と云う声が、何うして事務局を慌てさせる程どしどし舞込まないのだからか当然出そうな声なんだが。もうこそこそ藤の愚知等わ止めて、我々の協会であり我々自身のために、大いにわめき立てて欲

しいものだ、等と一言カモフラジをしておいて我等編集部もボヤキを一つ
「恒ちゃん(田中恒雄)結局始終顔を合せる奴が編集をやるより仕方ないね」
「滝さん(滝尾輝雄)前号だつて結局、貴方と相馬さん(相馬清恒)とでやつたんだつてね」
「仕事あるしその間を慣れない編集に皆を非協力的だと怨んだね腹の底でわ」
「誰か我々仲間て編集に経験とセンスある人わ居ないかね」
「梶君(梶孝三)わどうだね、聞いて見よう」
と云う訳で梶君にも手傳つて貰つて編集を始めた。処が彼わ途中で松山樹子バレエと中共え……
「田中君どうするね何とか今月中(三月)にわ発刊しなくてわ」
「ええ、気わせいしているんですが、何しろ先生(小川昇)未だ依頼した原稿すら全部集つてない様な始末で、些か面倒くさくなりました」
「結局こう云う仕事わ誰かが割喰うものだね。どう、大野君(大野洋)に手傳つて貰つたら。」
「それは是非頼みます。」
と云う事で小川舞台照明研究所の大野洋君の絶大なる協力を得て編集しました
大野洋曰く。
「此の間協会に入つたと思つたら、何とこの人使いの荒さ……えつ、会費? ……貰い度い様なモンダ」(恒)

編集後記

「暑さ寒さも彼岸まで」

昨年の三月に第一号を発行してから、この会報の永いブランクが続きどうやらやつと第二号の編集を終つてみたら何と丸一年の日が流れ、再び彼岸の声をき、校正終つてやつと発行の段取りになつたら何時の間にか桜の花さえ散る季節とはなつてしまいました。然し、発足二年目の照明家協会の飛躍的發展を期して、装い新たに、こゝに遅ればせながら会報第二号を発行出来る運びとなつたわけです。今後とも協会の發展と共に進むこの会報を、会員諸氏の力で一層充実した内容にしたいと考えて居ります。御協力をお願い致します。(編集子)

舞台照明家協会

会報 第二号

昭和三十三年四月三十日発行

発行所 舞台照明家協会

中央区築地四の二

電話64八五二八

(日本演劇協会内)

編輯人 滝 尾 輝 雄

発行人 小 川 昇

印刷所 福寿堂印刷所

台東区御徒町三の六

電話83二七七八

(非売品)

